

花の窟神社 お綱掛け神事

『日本書紀』には、女神イザナミノミコが火の神カグツチを生んで亡くなったという伝承の死後について次のように書かれています。

イザナミノミコを紀伊国の有馬村に葬った。
土地の人がこの神をお祭りするには、花のときに花をもってお祭りし、鼓・笛・旗をもって歌舞してお祭りする (宇治谷孟著「全現代語訳 日本書紀」)



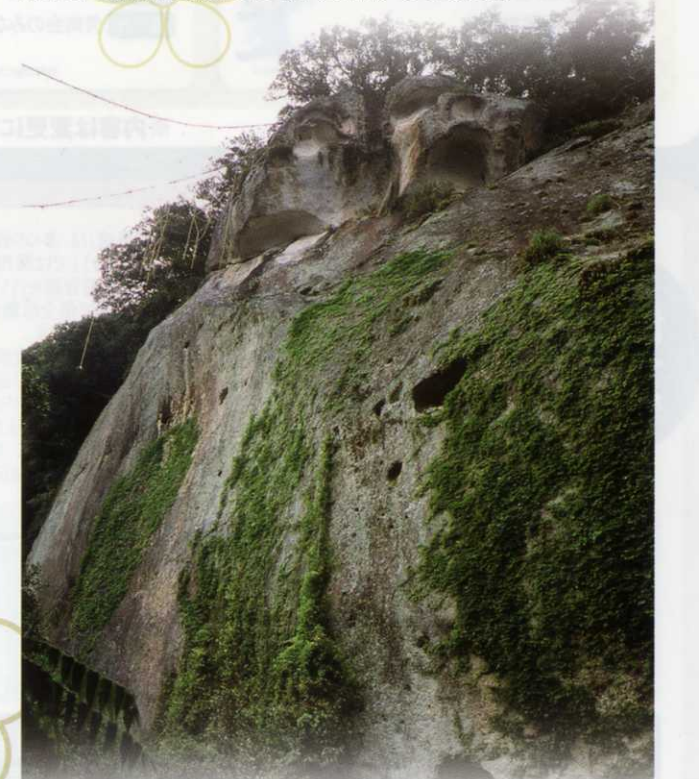
天保15年(1844) 藤川廣隆画(版木は熊野市郷土資料館蔵)

高さ45mの大岩の上から海岸に向かって張られた「お綱」を見上げてみるとどんな思いになるだろう。海の果てにある常世と現生、そして黄泉の国との境界だと感じてしまうのではないのでしょうか。この「お綱掛け神事」では、特別な田(明治初年までは奥有馬の山田の最上部にある御料田)で作られたモチ米の藁縄7本を束ねた長さ約170mの大綱に季節の花(2月2日はツバキ、10月2日はケイトウ)を結び付けた3つの縄幡および扇を吊るして、磐座の頂上(ウバメガシに結ばれる)から七里御浜の海岸へと大綱が引かれ、境内の南隅にある柱(かつてはマツの神木、現在はコンクリートの柱)の先端へと渡されます。3つの縄幡は三流の幡(みながれのはた)とよばれています。この3つの縄幡について『紀伊統風土記』には、朝廷から毎年奉獻されていた「錦の幡」が輸送途中で熊野川の増水で転覆したため代わりの「縄の幡」がつくられたとする記述がみえます。「お綱」を彷彿とさせる祭礼儀式がインドネシア・バリ島にあるという宗教学者久保田展人氏へのインタビュー記事があり少し引用します。

「これはお綱そのものではないかと直感した」。ペンジョールは、バリ・ヒンドゥー教の祭事「ガランガン」の期間中に家々の入口の左右に建てられる稲穂やヤシの葉を

飾り付け、空に向かって立てた長さ数十本の青竹は稲穂のようになり、先端が垂れ下がる。(略)久保田さんは、二つの祭事は発生時期も文化的な背景も異なり影響関係はないとみている。久保田さんは「熊野とバリには同じような地理的条件があるため、そこから同じような霊魂観がそれぞれ培われたものではないでしょうか」と考えている。著書『原日本の精神風土』に「祖霊、山神が山、岩、樹木等々を依代として降りてくると、地上に何らかの恵みをもたらすのだという祖霊観には明快な共通点が見られる」と記しているように、よく似た祖霊観や霊魂観が、約4千キロも海を隔てた熊野とバリに共通して育まれていることに着目している。「お綱」とペンジョールはその象徴なのだろう。(朝日新聞2014年2月16日(日)三重版「世界遺産10年熊野・黒瀬」)

『日本書紀』に伝承される花窟という聖地が、私たちにどういうメッセージを発信しているかを考えてみると生命の円環的な循環の営みに思いが至ります。2月の「お綱掛け」は、春の訪れも告げてくれます。



私は尾鷲で生まれ、5才とき父の転勤で離れ、戦時中に戻り尾鷲高女2年に転入学しました。その後当地で音楽教師として30才まで過ごしました。結婚して京都に移り住んで54年経ちました。その間、桐壺人形に魅せられ制作を続け、今では奈良県展に入賞するまでになりました。遠く離れていても多感な年代を過ごした紀州のことはいつも心に秘めて過しています。

熊野古道が世界遺産となつてから紙上などを通して読んでおりました。最近、思いがけないことにより、心の縁を繋いで頂きました。2年前、県立熊野古道センターの「東其石遺作展」に亡き母の所有品も出展され、私も初めて伺いました。直接みるセンターは海山に囲まれた素晴らしい文化の殿堂でした。次の年、NHK放映の「熊野古道」を見ながら、穴戸開氏と尾鷲高校時の同級生のガイドで、八鬼山を京都に居ながら一緒に歩かせて頂きました。驚きと感激の一日でした。



「ひびき」壁張をひく天平女性像

嬉しい紀州との繋がりが、この便り

次は尾鷲市の野田敦美さん



杉島季代子さん(京都府)

当初は聖護院一帯の広大な土地の鬱蒼とした森の中に、紀州から土、砂、木材なども運ばれて小さな祠のような建物や建物が建っていただけでした。その後何度か火災にあり、現在の社は天保6年(1835)下鴨神社の式年造営時に移築されたものだそうです。屋根の菊の御紋などは、天明8年(1788)の京都大火で御所も炎上し、光格天皇が3ヶ年仮御所とされた御縁からだと教わり、仰ぎ見つつ帰りました。紀州の皆様、熊野古道を守り、後世に永くお伝えし、発展されんことをお祈りしています。

花尻 薫からの季節のたより No.37

タイキンギクは漢字で堆金菊と書き、又、ユキミギクとも言われています。堆金菊は黄色の花が盛り上がって咲くから名づけられたものです。ユキミギクは雪の降る冬に開花するので、冷たい冬でも枯れずに育ちます。植物の仲間をよく似た種類同志が属という分類で分けられ、タイキンギクはサワギク属の仲間に入ります。タイキンギクはもともと南方から北上した植物で、台湾・中国・フィリピンなどで繁殖し紀伊半島南部にたどり着いたものです。尾鷲市出身の植物研究家、故川口三好次さんが、昭和54年頃、丸木崎・三木崎、熊野市の二木島で晩秋から冬に咲く珍しい植物だと、出版物で紹介しています。その他、原色植物図鑑(保育社)昭和35年発行



タイキンギク

では、本州(紀伊半島南部)四国(高知県)の海岸の崖に生える植物で、もともと南の方から分布してきた植物であると記しています。冬でも暖かい熊野の海岸の向陽の崖は気温も高く、台湾やフィリピンと比較しても、そう違いがないと思われます。タイキンギクは日本の絶滅の恐れのある野生植物で、環境省の調査では重要な植物であると記しています。タイキンギクの茎はつる状に伸びて長さは2m~5mあり、近くの木や物によりかかります。又、葉は三角形で長さは8cm~11cmです。タイキンギクの種は低気圧や台風の強風によって南から尾鷲市方面まで運ばれてきたものと思われる。

センター敷地内『夢古道おわせ』へぜひお立ち寄りください!

12/31(木) 1/2(土)はお休みです。

お母ちゃんのランチバイキング
尾鷲・東紀州の食材をふんだんに使った、地元のお母さんの味です。

営業時間: 11:00~14:00
料 金: 中学生以上.....1,200円
小学生以上.....700円
4歳~小学生.....300円
4歳未満.....無料
60歳以上.....1,000円

みえ尾鷲海洋深層水「夢古道の湯」
深海415メートルから取水された海洋深層水のお風呂。ミネラル分が豊富で保温性に優れているので、湯上がり後もポカポカです。

開館時間: 10:00~21:00
入 浴 料: 一般.....600円
65歳以上.....500円
4歳~小学生.....300円
4歳未満.....無料

お風呂あがりは、カフェでゆったり
営業時間: 9:00~17:00
(カフェラストオーダー 16:30)

毎月26日は風呂の日 お子様は通常300円が100円でご入浴できます。



熊野古道センターニュースレター
熊野古道センターからのてがみ
● 2015年 冬号 ●

● 発行日: 2015年12月10日(季刊)
● 編集・発行: 三重県立熊野古道センター
(三重県指定管理 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
● 編集担当: 東
● 連絡先: 〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4
TEL 0597-25-2666
FAX 0597-25-2667
Mail info@kumanokodocenter.com
HP http://www.kumanokodocenter.com/
● 開館時間: 午前9時~午後5時
● 入場料: 無料
● 休館日: 12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館)

熊野古道センター休館日のお知らせ
12/31(木)・1/1(金)の2日間は休館いたします。
新年は1/2(土)から開館!
みなさまのご来館をお待ちしております。
60000151210MH

その他
Guide&Tips



東紀州のうまいもの ~ あおさ ~



東紀州地方沿岸はリアス式海岸が生み出す絶好の海藻類の宝庫です。中でも、アオサは三重県が日本一の生産量(なんと全国比75%)を誇り、紀北町矢口浦をはじめ、県内各地で、冬から春にかけて、とても良質なアオサが収穫されます。美味しい食べ方は色々あります。これからの時期は何といてもお味噌汁が一番。(適量はお味噌汁一杯に約2g)その他、ラーメンに入れたり、卵焼きに混ぜても美味しくいただけます。芳醇で優しい磯の香りが特徴のアオサですが、カルシウムや葉酸が豊富に含まれるといわれ、栄養満点の食材でもあります。ぜひ旬のアオサをご賞味ください。

伊勢志摩サミット2016開催



熊野古道 フォトコンテスト
締切間近!!
平成27年 12/21 (月) 当日必着!!
応募先: 熊野古道センター 三重県立熊野古道センターフォトコンテスト係
〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4
TEL:0597-25-2666 FAX:0597-25-2667
詳細は三重県立熊野古道センターHPをご覧ください。

初日の出を見に行こう!

年末が近づくと、初詣や初売りなど家族や友達とどこへ出かけようかと迷っている人も多いのでは?そこで、今回は東紀州地域で人気の日の出スポットをご紹介します。新年に大切な人と初日の出を見ながら過ごすのも素敵ですね。



- 1 高塚公園展望台…紀伊の松島と呼ばれる島々の間から昇る朝日
- 2 猪鼻水平道……日本の朝日百選。小島の浮かぶ尾鷲湾から昇る朝日
- 3 七里御浜海岸……日本の朝日百選。熊野灘の水平線から昇る朝日

お正月スペシャル体験教室

<p>2016年 1/2 土</p> <p>2 連凧づくり</p> <p>時間: 午前10時~12時 参加料: 200円 定員: 20名(要申込・先着順) 場所: 体験学習室 講師: 熊野古道センター職員</p>	<p>2016年 1/3 日</p> <p>3 餅つき</p> <p>時間: 午後1時~ 参加料: 無料(事前申込不要) 場所: 交流棟小ホール 協力: 芳向会のみなさん</p>	<p>2016年 1/3 日</p> <p>3 干支折り紙の飾り物づくり(申)</p> <p>時間: 午後1時~3時 参加料: 300円 定員: 先着30名(事前申込不要) 場所: 展示棟ホール 講師: 折り紙サークルのみなさん</p>
---	--	---

※内容は変更になる場合があります。

和歌山県 世界遺産センター からのお知らせ

当センターが行う参詣道保全活動「道普請」は、多くの皆様に参加していただいています。前号でお知らせした個人参加型の「環境保全トレッキング(10月10日実施分)」では関西・東海圏から160名に参加していただきました。今年は「高野山開創1200年」にあたり、是非、高野山町石道で道普請を行いたい」と高野地域での道普請を希望する団体が増えています。なかには、高野山町石道と熊野参詣道と両方で保全活動をされる団体もみられます。来年は、熊野参詣道中辺路に加え、小辺路(田辺市本宮町内)での道普請も行う予定です。

和歌山県世界遺産協議会(事務局:和歌山県世界遺産センター)では、次世代を担う子どもたちへの世界遺産教育として、次世代育成事業を実施しています。この事業は、世界遺産講座(座学)と現地学習を通して、世界遺産の大切さや紀伊山地の霊場と参詣道への理解が深まるように、和歌山県内の児童・生徒への学習支援を行うものです。参加校の中には、現地学習のなかで道普請(土入れ作業等)をして、児童生徒が直接、参詣道の保全に関わる学校もあります。

また、当協議会では、保存活用団体連携促進研修事業として、参詣道の保存活用で活躍されている団体の研修会(交流会)を年に一度行っています。今年度は、12月1日(火)に熊野参詣道伊勢路(風伝峠)で開催しました。三重県からも35名の方が参加されました。

平成27年度 第4回 世界遺産セミナー(予定)

第4回 平成28年 1/24(日) 13:00~15:00

内容: 「熊野三山願所」について
講師: 山本 殖生氏(熊野三山協議会幹事)
場所: 熊野本宮館 多目的ホール(田辺市本宮町本宮100-1)

参加費: 無料

平成27年8・9・10月の道普請参加団体(敬称略)
阪急交通社、JT、環境保全トレッキング、四国道路・熊野古道連携事業協議会、和歌山市立有功東小学校、さわかみ一般財団法人、和歌山県立新堀高等学校、和歌山市立城東中学校、花王和歌山事業場

「道普請」とは
文化財保護専門職員による指導のもと、参詣道の保全活動(土入れ・側溝清掃等)を行っていただくものです。ボランティア活動・CSR活動として、毎年、多くの皆さまに参加していただいています。

和歌山県世界遺産センター TEL.0735-42-1044 までお願いいたします。
住所: 和歌山県田辺市本宮町本宮100-1 FAX: 0735-42-1560 E-mail: e0624002@pref.wakayama.lg.jp

旬の企画展
Event Info.

企画展 1 「御浜窯の魅力」
かつて、御浜町神木で作られていた御浜窯の歴史と、作品を通して御浜窯の魅力をご紹介します。
会期: ~平成28年2月14日(日) 午前9時~午後5時 *12月31日、1月1日休館
入場料: 無料
場所: 企画展示室

企画展 2 「熊野古道写真学校作品展」
平成27年11月21日~23日に開催した「第9回熊野古道写真学校~熊野と出会う~」参加者の写真作品を展示します。魅力たっぷりの作品をお楽しみください。
会期: 平成28年2月20日(土)~4月17日(日) 午前9時~午後5時 *期間中無休
入場料: 無料
場所: 企画展示室

特別展① 「海山郷土資料館 館蔵品展」
郷土の歴史と暮らしを伝える「海山郷土資料館」で所蔵されている資料を展示します。
会期: 12月12日(土)~平成28年1月31日(日)
時間: 午前10時~午後5時
入場料: 無料
場所: 特別展示室
展示資料について解説します。
日時: 12月19日(土)午後1時30分~
場所: 特別展示室
参加料: 無料
講師: 家崎 彰氏(館長)

特別展② 「油彩で熊野古道を描く」
講師に伊藤清和氏をお迎えし、年間4回にわたり開催した「油彩で熊野古道を描く」の成果発表として、参加者が制作した熊野古道(観音道、丸山千枚田)の風景作品を展示します。
会期: 平成28年2月13日(土)~3月31日(木) 午前10時~午後5時
入場料: 無料
場所: 特別展示室

ロビー展① 「まちかど博物館展」
1/23(土)~1/31(日)
東紀州の文化や風土から生まれ、地域が育んだ「まちかど博物館」を紹介し、まちかど博物館に展示してある個人の貴重なコレクションや優れた手仕事などの品々を一堂に展示します。
時間: 午前9時~午後5時(研究収蔵庫) 午前10時~午後5時(研究収蔵庫)
入場料: 無料
場所: 交流棟ホール
主催: 東紀州まちかど博物館尾鷲・紀北地区運営委員会
共催: 三重県立熊野古道センター、紀北地域活性化局

ロビー展② 「第12回 尾鷲おひなさままつり」
2月下旬~3月上旬(予定)
期間中、尾鷲市内各所で様々なおひなさまを展示します。おひなさま巡りをお楽しみください。
時間: 午前9時~午後5時(研究収蔵庫) 午前10時~午後5時(研究収蔵庫)
入場料: 無料
場所: 展示棟ロビー、研究収蔵庫ロビー
※期間中の土曜日(2月27日、3月5日)、午後1時~3時まで展示棟ロビーにて「おひなさま祭り紙体験」を無料で行います。

交流イベント

2/11(木・祝) 三重県立熊野古道センター9周年記念
ドゥ・マルシェ+1コンサート
ヴァイオリンとアコーディオンからなる2人組の音楽ユニット「ドゥ・マルシェ」とパーカッション奏者の継田和広氏の3名による躍動感溢れる音楽をお楽しみください。
時間: 午後1時30分~3時
参加料: 500円
定員: 200名
場所: 交流棟大ホール
出演者: Deux Marchés、継田和広氏
要整理券 先着順
※整理券配布 1月11日~

体験学習

12/20(日) 「ひのきアート教室~お正月飾り(申)」
地元の特産品である尾鷲ヒノキを使って、玄関やお部屋に飾れる干支の置物を作ります。
時間: 午後1時~4時
参加料: 1,000円
定員: 10名(要申込・先着順)
場所: 体験学習室
講師: NPO法人海虹路

東紀州の四季を味わう料理教室

①2/28(日) 「幻の渡利牡蠣」 ②3/27(日) 「尾鷲のマダイ」
東紀州の旬の食材や特産品を使った大人気の料理教室です。季節に合ったレシピを紹介します。調理のコツや裏ワザだけでなく、東紀州の食材について学べるのもこの教室の魅力です。楽しく学んだ後は、みんなで美味しくいただきます。
時間: ①午後1時~4時 ②午前10時~午後1時
参加料: 2,000円
定員: 24名(要申込・応募多数抽選)
場所: 体験学習室
講師: 村林新吾氏(三重県立相可高等学校食物調理科教師)
受付: ①1/28(木)~2/14(日) ②2/27(土)~3/13(日)

講座・講演

1/16(土) 熊野古道センター映画祭「第三の男」
第二次世界大戦直後のオーストリアを舞台に描かれたモノクロのサスペンス映画「第三の男」を上映します。(解説・座談会もあります)
時間: 午後1時~3時30分
参加料: 無料
定員: 80名(要申込・先着順) *受付は12/16(水)から
場所: 映像ホール
解説: 田中忍氏(三重映画フェスティバル実行委員会)

2/28(日) 「茶約づくり」
平安時代まで遡る歴史を持つ茶道において、欠かせない道具として茶約があります。かつては茶人自らが制作することが主流だった茶約作りに挑戦してみませんか。(竹筒付き)
時間: 午前10時~12時 講師: 青木健齊氏
参加料: 1,500円 受付: 1月28日(木) ~2月21日(日)
定員: 20名(要申込・先着順)
場所: 体験学習室

高野山開創1200年記念 紀伊山地の豊かさ信仰を探る連続講演会

2/7(日) 第2回 乾仁志講演会 「密教の深層と曼荼羅世界」
講演内容: 弘法大師空海が説いた真言密教と曼荼羅について
講師: 乾仁志氏(高野山大学教授・日本密教学会理事)

3/12(土) 第3回 内山節氏講演会 「紀伊山地の自然と信仰」(仮)
講演内容: 広大で神聖な空間紀伊山地で育まれた自然と信仰について
講師: 内山節氏(哲学者)

時間: 午後1時30分~3時 定員: 各80名(要申込・先着順) 受付: 各開催日の1ヶ月前から
参加料: 無料 場所: 映像ホール

※内容は変更になる場合があります。
〈お申込み・お問い合わせは、お電話が直接熊野古道センターへどうぞ! TEL:0597-25-2666〉